

授業科目	総合演習Ⅱ(Aクラス)					実務家教員担当科目	○				
単位	1.	履修	選択	開講年次	4	開講時期	前期				
担当教員	天本 理恵										
授業概要	<p>本科目では、「臨床栄養学」「公衆栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」の実践栄養分野において、管理栄養士として必要となる最新情報や重点事項等を解説する。さらに、各分野において、これまでに学んだ専門的知識を統合して、対象者への適切な栄養管理ができる能力を養う。また臨地実習における課題の発見や新たに学んだことを共有し、管理栄養士としての職務や専門性についてグループにて討議を行う。「臨床栄養学」、「公衆栄養学」に関しては、実務家教員による講義を実施し、実践的な栄養管理を展開できる能力を養う。</p>										
授業形態	講義・演習				授業方法	グループワークを含む					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理栄養士に必要な最新の実践栄養分野における情報、関連領域の動向を理解し、説明できる。(DP3-1, DP5-1) 2. 個人の状況に応じた適切な食事や特定の集団の特性に応じた食生活の支援に関するマネジメント方法を理解し、説明できる。(DP1-2, DP2-1, DP4-1, DP4-2, DP5-1) 3. ライフステージ別栄養分野における栄養改善を必要とする事例について、専門科目で学んだ内容から総合的に理解し、適切な栄養管理計画を立案できる。(DP1-2, DP2-1, DP4-1, DP4-2, DP5-1) 4. 各疾患の成因・病態・治療法を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を提案できる。(DP1-2, DP2-1, DP4-1, DP4-2, DP5-1) 5. 各疾患に対して、栄養計画の作成、栄養ケアの実施、モニタリングを行い、治療のための栄養管理を行うことができる。(DP1-2, DP2-1, DP4-1, DP4-2, DP5-1) 										
理想的レベル	<p>標準的レベル1~5の全てを達成したうえで、知識に関しては、より詳細かつ丁寧に説明できる。さらに、修得した知識を応用し、対象者の栄養問題を的確に把握、総合的に理解して、適切な栄養ケア計画の立案ならびに栄養管理方法の具現化に対応できる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合(数値)					備考				
試験		80%									
小テスト											
レポート											
発表(口頭、プレゼンテーション)											
レポート外の提出物											
その他		20%					各分野別に小テストや課題等を課す(各5点)				
カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NT32202J
学習課題(予習・復習)										1回の学習目安(時間)	

予習：講義内容に関する、これまでに学んだ知識の復習をしておく。 復習：各講義内容および演習内容を復習する。	1
授業計画	
第1回	【公衆栄養学分野】地域包括ケアシステムについて 地域包括ケアシステムについて解説をし、管理栄養士の役割について解説する。 担当：坂田郁子
第2回	【公衆栄養学分野】地域ケア会議の実際 地域ケア会議における管理栄養士の役割を解説する。 担当：坂田郁子
第3回	【公衆栄養学分野】在宅栄養管理の実際 介護予防のための栄養管理について、多職種連携等も含め解説する。 担当：坂田郁子
第4回	【栄養教育論分野】栄養教育論に関する応用的検証1 個人の身体状況・栄養状況に応じた食事に関するマネジメント方法を立案する。 担当：永原真奈見
第5回	【栄養教育論分野】栄養教育論に関する応用的検証2 特定の集団における適切な食事や食生活の支援に関するマネジメント方法を立案する。 担当：永原真奈見
第6回	【栄養教育論分野】栄養教育論に関する応用的検証3 栄養教育における目標と評価について、総合的に解説する。 担当：永原真奈見
第7回	【応用栄養学分野】妊娠・授乳期の栄養管理 妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針を用いて、妊娠・授乳期の栄養管理について解説する。 担当：天本理恵
第8回	【応用栄養学分野】乳児期の栄養管理 授乳・離乳支援ガイドを用いた栄養教育や活用法について解説する。 調乳ガイドラインに基づいた調乳方法について確認する。 担当：天本理恵
第9回	【応用栄養学分野】食物アレルギーの栄養管理、健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023 について 食物アレルギーの病態、食事指導、最新情報について解説する。 「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」について解説する。 担当：天本理恵
第10回	【応用栄養学分野】食事摂取基準 2020年版

	<p>食事摂取基準 策定の基礎理論、ライフステージ別の食事摂取基準、各対象者への食事摂取基準の活用について解説する。</p> <p>担当：天本理恵</p>
第11回	<p>【応用栄養学・臨床栄養学分野】口腔機能と栄養について</p> <p>口腔機能と栄養との関連性および栄養に関する口腔ケアについて解説する。</p> <p>嚥下食ピラミッドについて理解し、対象の口腔機能レベルに対応した嚥下食を立案する。</p> <p>担当：天本理恵</p>
第12回	<p>【臨床栄養学分野】経管栄養と中心静脈栄養について</p> <p>消化管機能が必要な経口摂取・経管栄養と消化管機能を使わない末梢静脈栄養と中心静脈栄養について解説する。</p> <p>担当：渡邊和美</p>
第13回	<p>【臨床栄養学分野】循環器疾患の栄養管理</p> <p>脂質異常症、高血圧、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全について解説する。</p> <p>担当：渡邊和美</p>
第14回	<p>【臨床栄養学分野】代謝・内分泌疾患、薬物と栄養・食事の相互作用</p> <p>糖とインスリンの関係性や、栄養・食品が医薬品に及ぼす食物の影響について解説する。</p> <p>医薬品が栄養・食品に及ぼす影響等について解説する。</p> <p>担当：渡邊和美</p>
第15回	<p>【臨床栄養学分野】症例から考える個々人を対象とした栄養管理の手法</p> <p>メンタル疾患・がんを含めた生活習慣病の症例から、栄養状態の評価・判定を行い、多職種との調整を行うまでの栄養管理プロセスについて解説する。</p> <p>担当：渡邊和美</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本人の食事摂取基準 2020年版」(厚生労働省) ・吉田勉 監修：「わかりやすい臨床栄養学」(三共出版) ・奈良信雄 著：「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック」(医歯薬出版) ・永井徹 編著「ステップアップ臨床栄養管理演習」 ・国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所(監修)：「栄養教育論(改訂第5版)(健康・栄養科学シリーズ)」(南江堂) <p>電卓(携帯電話の電卓不可)は講義演習時は常に持参するようにしてください。</p> <p>「臨床栄養学」「応用栄養学」「公衆栄養学」「栄養教育論」の各分野で必要に応じて、資料を配付する。</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針(厚生労働省) ・乳児用調整粉乳の安全な調乳、保存及び取扱いに関するガイドライン(WHO/UNICEF)(厚生労働省) ・授乳・離乳支援ガイド(厚生労働省) ・健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023(厚生労働省)

課題に対するフィードバックの方法	教科によっては、課題を課す。課題は添削後に返却する。応用栄養学分野は小テストを講義終了時に実施する。小テストは講義終了時に解説し、提出する。提出した小テストは次の講義時に返却する、小テストに記載のある質問等にも回答して返却する。
学生へのメッセージ・コメント	<p>【理解に必要な予備知識や技能】「臨床栄養学」「応用栄養学」「公衆栄養学」「栄養教育論」の実践栄養分野に関する知識ならびに具体的な栄養・食事療法に対応できる調理技術を必要とする。</p> <p>【授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ】総合演習Ⅱは、これまでに学んだ専門科目を基に、管理栄養士として必要な実践的な栄養ケアの知識・技術を総合的に理解する力を養います。また、実践栄養関連領域における最新情報を修得し、管理栄養士として、総合的な観点から栄養管理できる力を身につけましょう。シラバスを参照し、次回の講義内容について、予習して授業に臨んでください。なお、試験の詳細については、授業の中で説明します。</p>